

安川電機 歴史物語

最終章 創立100周年に 向けて

事業の再編・強化の動き

平成5、6年頃から、グループ全体で積極的に事業の再編、生産拠点の再配置が行われるとともに、新会社も設立された。主なものとして、平成8年には八幡工場の小形汎用モータを関連会社の(株)ワイ・イー・ドライブに譲渡し、翌9年には小倉工場の回転機部門を八幡工場に統合、小倉の事業所は「開発センタ」と改称された。平成11年には、ドイツ・シーメンス社との合併で「安川シーメンス オートメーション・ドライブ(株)」を設立し、製紙、繊維、荷役、プラスチック、印刷などの分野で強力なパートナーシップを結び、今日に至っている。またロボット事業強化の一環として、トキコ株式会社から塗装ロボット事業を譲り受け、平成12年には安川商事(株)のロボット販売部門を吸収した。同年には八幡工場の中大形回転機部門を分社化して「安川モートル(株)」を設立した。

関連会社のうち、(株)ワイ・イー・データは昭和60年、安川情報システム(株)は平成15年に東証2部に上場した。

平成13年には事業区分を変更し、モーションコントロール、ロボティクスオートメーション、システムエンジニアリングの3事業部に再編された。

サーボ、インバータ、ロボットの主力事業における新製品も相次いで開発、発表された。平成9年にACサーボドライブ「Σ-IIシリーズ」を製品化、またスーパー省エネドライブ「VS-686SS5」や、300ミリウェハ対応真空/クリーン環境用ウエハ搬送システムを開発した。高性能

のロボット「MOTOMAN-UPシリーズ」、コントローラ「XRC」の製品化もこの頃である。



生産面では、ACサーボモータが100万台、Σモータが10万台(いずれも平成10年)、MOTOMANが5万台(平成11年)、と順調に生産を伸ばした。また海外における生産、拡販も順調で、米国安川電機のインバータ生産が10万台を突破し(平成10年)、米国の「MOTOMAN INC.」による米国でのMOTOMAN設置が1万台に到達した(平成11年)。

平成13年、人間事業所(埼玉県入間市)内に「ソリューションセンタ」が竣工し、当社の技術、製品によってお客様に最適なソリューションをご提案するための拠点として活動を開始した。その前年には社内の「CS推進本部」



ソリューションセンタ

を新設し、全社を挙げてCS(お客様の満足度)の向上に取り組んでいる。

業績の改善と事業の拡大

当社では平成11年度から4か年の中期経営計画「Win21」において、4つの構造改革(事業・企業・経営・財務構造改革)を断行した。特にコア事業であるモーションコントロールおよびロボティクスオートメーション事業へ構造をシフトするとともに、経営資源を集中した。しかし、外部環境の激変の影響もあり、成果が未実現であったことから、平成15年度から3か年の中期経営計画「Win21プラス」を策定、「Win21」基本目標達成に再チャレンジするとともに、業界をリードする高収益企業への転換を目指したのである。

「Win21プラス」では、成長市場(半導体・液晶、自動車、中国・アジア各市場)への注力および抜本的コスト構造改革を行い、この結果、業績は大きく改善され、より積極的に事業を拡大する基盤が整った。こうした状況を踏まえ、2015年度を迎える会社創立100周年に向けて、コア事業におけるダントツのグローバルNo.1の地位を確実にすると同時に、新しい事業の柱を確立するための第1ステージとして、平成18年度から3か年の中期経営計画「ダッシュ100」をスタートさせた。初年度の平成18年度は良好な市場環境をとらえ「攻めの経営」を展開し、業績は過去最高だった前年度を上高、利益とも上回るとともに、5期連続の増収・増益を達成したのである。

一層のシェア拡大や、新たな分野への展開を目指した新製品の開発も進んでいる。サーボドライブ「Σ-V(シグマ・ファイブ)」、インバータ「V1000」、産業ロボットでは双腕の「MOTOMAN-DA20」や「MOTOMAN-DIA10」、腕形の

「MOTOMAN-IA20」を市場投入している。一方、技術開発本部では次世代ロボットの研究開発も進めており、技術検証プラットフォーム「SmartPal」を開発、その後もSmartPalに用いられた各種技術の実証実験を重ねている。



創立100周年に向けて

八幡西事業所に平成18年1月、ロボット新工場「モートマンステーション」が竣工し、この年、ACサーボは生産500万台、MOTOMANは15万台出荷に到達した。そして今年、平成19年には行橋事業所にインバータの新工場が完成、稼働を開始する。中期経営計画「ダッシュ100」の完遂を目指して諸施策を展開しながら、お客様への最適なソリューションのご提供を通じて社会の発展に貢献するべく、安川電機はさらに力強い事業展開を図っているのである。

当社創立90周年を記念して連載してまいりました「安川電機歴史物語」は、今回をもちまして終了いたします。長い間、ご愛読ありがとうございました。

文責：人事総務部・広報グループ 村田 晋

棟方志功

安川カレンダー物語

エピローグ：

共に旅して

「安川ニュース」の付録として誕生した棟方志功画伯の作品による「安川カレンダー」は、その後半世紀にわたり、安川電機の「顔」としてお客様の事務所やご家庭の壁に飾られてまいりました。特に、画伯と共に旅して作り上げた昭和46年からの「海道シリーズ」は、安川電機にとっての大きな文化的財産であるとともに、画伯の代表作の一つとして美術史に残る作品となりました。

「カレンダー物語」の最後を飾る道標として、これまでの「安川カレンダー」48タイトルをご紹介します。

1958年 流離抄	1976年 瞞着川	1992年 東海道
1960年 滞米作品	1977年 柳緑花紅頌	1993年 続東海道
1961年 鳥の柵	1978年 鐘深頌	1994年 栖霞品
1962年 節妙譜	1979年 善知鳥	1995年 女人観世音
1963年 關徹の公案	1980年 歌々版画冊	1996年 「詩歌の柵」秀作選
1964年 華嚴の柵頌	1981年 華嚴譜	1997年 「花鳥の柵」秀作選
1965年 慈航	1982年 倭画十二作	1998年 「想いの柵」秀作選
1967年 無盡	1983年 欧米版画冊	1999年 版画秀作選
1968年 光輪	1984年 炫火頌	2000年 版画秀作選
1969年 如意	1985年 胸肩の柵	2001年 「神々の柵」秀作選
1970年 大乗	1986年 青天抄	2002年 「詩・物語の柵」秀作選
1971年 西海道	1987年 追開心経頌	2003年 「棟方志功藝業」秀作選
1972年 続西海道	1988年 流離抄	2004年 「海道・旅の世界」秀作選
1973年 南海道	1989年 夢應の鯉魚	2005年 「讃仰の柵」秀作選
1974年 奥海道	1990年 富嶽頌	2006年 山懐頌
1975年 羽海道	1991年 観音経	2007年 続・炫火頌



「西海道棟方板画」
安川電機本社の柵(1971年)

■安川カレンダーご紹介サイトは…
<http://www.yaskawa.co.jp/activities/munakata/index.htm>